

**浦安鉄鋼団地における産業博物館の提案
産業遺産の保存と地域活性化に向けた建築的提案**

**Proposal for an Industrial Museum in the Urayasu Steel Complex Sub Title Times New Roman 10.5pt Bold Centering.
Architectural Proposals for the Preservation of Industrial Heritage and Regional Revitalization.**

佐藤信治¹, ○畑口優太¹
Sinji Sato¹, *Hataguchi Yuta¹

The steel industry in Japan was a key sector that supported urban infrastructure during the period of rapid economic growth. However, it now faces a downturn due to declining construction demand and a shortage of skilled labor, raising concerns about the preservation of industrial technologies and labor culture. In response to this situation, there is a growing need to preserve the industry while revitalizing it in a way that is open to society, utilizing it as a hub for education, culture, and community engagement. This proposal explores the potential of an industrial museum as a means to achieve these goals, aiming to contribute to both regional revitalization and cultural heritage preservation.

1. はじめに

日本の鉄鋼業は、高度経済成長期に都市基盤を支えた重要産業である。しかし現在は、建設需要の減少や人材不足の影響で不況に直面し、産業技術や労働文化の継承が危ぶまれている。この状況に対し、産業を保存しながら社会に開かれた形で再生し、教育・文化・交流の拠点として活用することが求められている。本計画では、その手法として産業博物館の可能性を検討し、地域活性化と文化継承に資する提案を行う。

2. 敷地調査

高度経済成長期に造成された浦安鉄鋼団地は、首都圏の鉄鋼供給を支えた重要な産業拠点である。しかし現在、団地内の多くの工場は老朽化や稼働縮小に直面しており、周辺住民との関わりも希薄化している。その結果、産業文化の記憶が失われつつあるため、産業の継承と市民交流の拠点となることが求められる。

表 1. 浦安鉄鋼団地



Figure 1. Urayasu Steel Industrial Park

表 2. 推定年間取扱量



Figure 2. Estimated Annual Handling Volume

3. 基本計画

3-1. 計画敷地

本計画では、団地中央部に位置する見明川沿いの工場群を敷地とする。主要道路や運河に近接しており、来訪者のアクセスが容易で、団地のシンボリック存在となり得る立地条件を持つ。敷地周辺の運河や水路はかつて鉄鋼輸送の船舶動線として利用されていたが、水深が浅く大型船舶の航行に適さないことから、現在ではほとんど使われていない。その結果、海上輸送を前提とした立地の利点は薄れ、陸上輸送への依存が高まっている。こうした背景は、鉄鋼団地がかつての役割を果たしにくくなっている現状を示すとともに、新たな土地利用や施設転換の必要性を示唆している。

1: 日大理工・教員・海建 Department of Oceanic Architecture Engineering, College of Science Technology, Nihon University.
2: 日大理工・学部・海建 Department of Oceanic Architecture Engineering, College of Science Technology, Nihon University.

表 3. 伝平橋からの工場群



Figure 3. View of the cluster of factories from Denpei Bridge

3-2.計画内容

そこで本提案では、鉄鋼団地の産業的特徴を保存・再生しつつ、地域社会に開かれる産業博物館を提案する。博物館機能を持つ建築は、産業の継承と市民交流の新たな拠点となることを目的とする。さらに、本計画はドイツのツォルフエアイン炭鉱のように、工場建築をリノベーションして博物館として再生した事例を参考にしており、産業遺産を新しい文化資源へと転換する可能性を示すものである。

表 4. ツォルフエアイン炭鉱業遺産群



Figure 4. Zollverein Coal Mine Industrial Complex in Essen

4. 建築計画

4-1.空間計画

本計画では、見明川沿いの工場群と、現在は使われなくなった船舶動線である水路を活かし、その周辺を巡るフローティングの道や橋を設けることで、水辺と産業景観を一体的に体験できる環境を形成する。これにより、来訪者は工場群との間の空間を歩きながら、加工方法の異なる複数の鉄鋼工場を見学できる仕組みを体験できる。さらに、フローティングテラスにカフ

ェや休憩所を設けることで、人々が集い、憩いながら交流できるコミュニケーションの場としても機能することで、学びと観光を兼ね備えた回遊動線が創出される。また、県有岸壁にはターミナル機能を含む産業博物館を建設し、展示・交流・教育の拠点とする。これにより、かつての産業活動の痕跡を保存するとともに、人々を団地内に引き込み、地域に開かれた文化・交流の場としての拠点となる。

表 4. 計画敷地一帯



Figure 4. Planned site

4-2.対象となる人

地域住民、学生、ディズニーから客を奪う

4-3.想定人数

500人~1000

4-4.想定稼働日

テラス、橋：年中無休

産業博物館：平日のみ

4-5.主要機能

各工場内：体験スペース・ワークショップ

テラス、橋：公共施設・交流エリア・展望スペース・カフェなど

産業博物館新館：産業史展示・実物展示

5. 参考文献

[1] 浦安鉄鋼団地協同組合ホームページ

<https://www.u-steelworld.net/>

[2] 浦安鉄鋼団地案内図

<https://abe-steelpipes.co.jp/wp/wp-content/themes/asp/images/company/urayasudanchimap.pdf>